

平成27年度国立天文台研究集会開催報告書

平成 28年 1月 26日

国立天文台長 殿

代表者	氏 名	(ふりがな) ちば たけし		
		千葉 剛 		
	所属・職	日本大学文理学部・教授		
	電話	03-3329-1151	E-mail	chiba@phys.chs.nihon-u.ac.jp
研究集会名	理論懇シンポジウム「宇宙における天体形成から生命まで」			
開催期間	2015年 12 月 23 日 ～ 2015年 12 月 25 日			
開催場所	大阪大学豊中キャンパス 基礎工学部国際棟シグマホール			
参加人数	163名			
研究集会の概要	理論懇シンポジウムは、理論天文学・宇宙物理学者の研究者団体である理論天文学宇宙物理学懇談会が主催し、年一回開催されるシンポジウムである。近年、宇宙における生命の痕跡を求めて、(地球型)惑星の探査や隕石における生命の痕跡探しが盛んに行われている。関連して、惑星における生命の起源さらには惑星系形成過程の研究が活発に行われてきている。これらの研究テーマはさらに、宇宙(放射線)環境下における元素・生命の進化というテーマを通じて宇宙物理学における様々な研究分野と関連してくる。 そこで本研究集会では、「惑星形成と生命」を中心テーマに据えつつ、関連する幅広い分野を取り上げ、「われわれはどこからきたのか」を考える一助としたい。そこで、27年度の理論懇シンポジウムのテーマは「宇宙における天体形成から生命まで」として、大阪大学で開催された。以下の3つのトピックに関して各分野の専門家の方々に招待講演をしていただいた。 ① 元素の起源・化学進化・地球化学 ② 星・惑星系・惑星形成・銀河形成 ③ 宇宙環境下の生命・宇宙天気 招待講演者(敬称略)： 寺田健太郎、近藤忠(阪大)、小林千晶(Univ.Herts)、郡和範(KEK)、青木和光(天文台)、小林浩(名大)、相川祐理(筑波大)、武藤恭之(工学院大)、百瀬宗武(茨城大)、片岡龍峰(国立極地研)、三宅美沙(名大STE研)、松井孝典(千葉工大)、柴田一成(京大)、平野照幸(東工大) これに加えて、主に若手の研究者にも関連分野のセッションで一般講演をしていただいた。			

研究集会の成果	「惑星形成と生命」に関連する幅広い分野のレビュー講演により、宇宙物理学のさまざまな研究分野の新たな異分野交流の機会を提供した。また、観測分野の進展状況を知ること、理論研究者として観測研究にどのように貢献できるか把握し、理論と観測の最新の進展の情報の共有の場を提供することができた。 最近の天文研究の理論・観測の進展は目覚ましく、自分の研究分野に限っても最新の結果をフォローするのは容易ではない。そこで、理論懇シンポジウムでは幅広い分野のレビュー講演を各分野の専門家にお願いすることで研究の進展の共有を図った。さらに、一部の口頭発表枠を若手(D3)に優先的に配分することで、若手研究者の修行・宣伝の機会を提供した。
その他参考 となる事項 (希望事項も 含む)	